

2017年3月3日 日本古典籍ワークショップ

版本〔謡本〕3点について

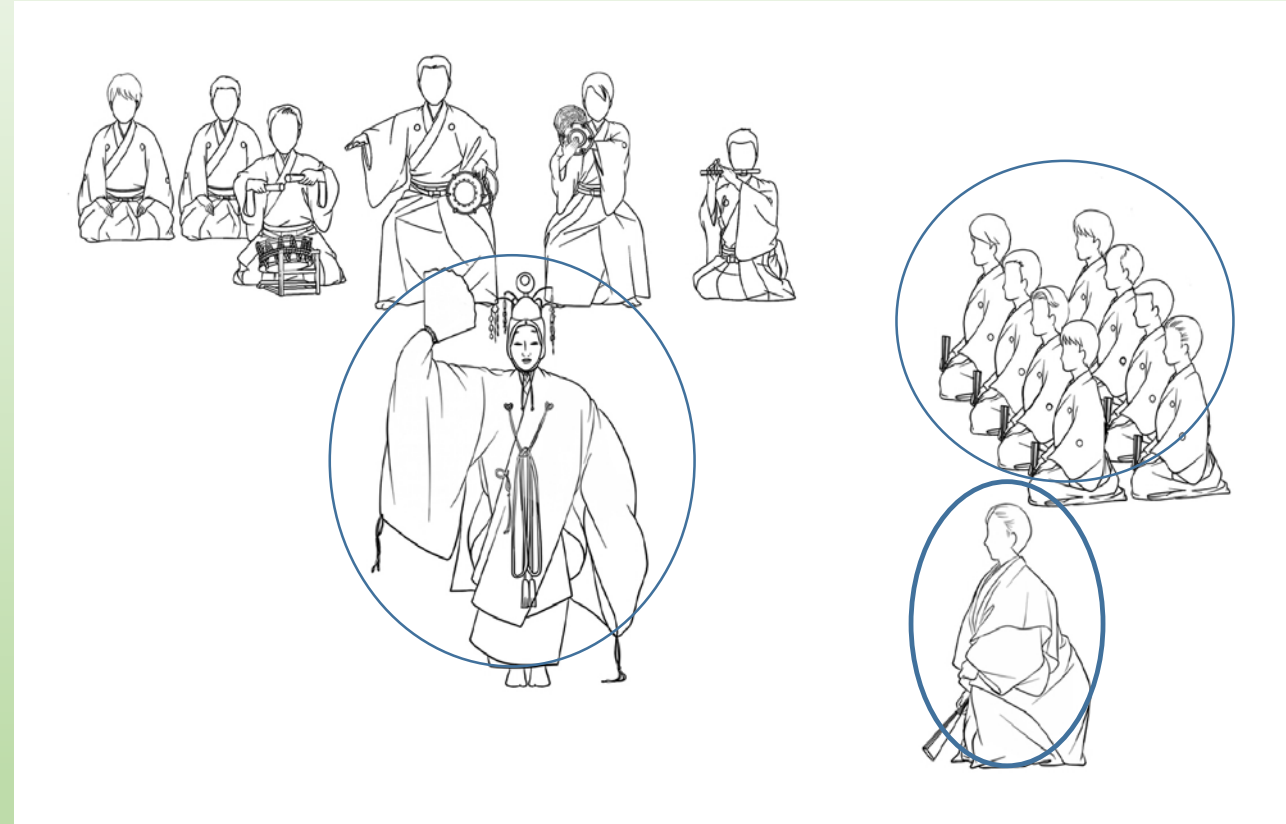
はんぽん〔うたいぼん〕さんてんについて

国文学研究資料館 プロジェクト研究員 柳瀬千穂

やなせ ちほ YANASE Chiho

謡本とは？

- 音楽劇である能(のう)の、声楽部分である謡(うたい)のテキストのこと。舞台ではイラスト(「羽衣」(はごろも)上演の様子)の青いラインでかこった演技者が担当する。
- 謡本＝能の台本ではない。
- 室町後期以降、非専門家も趣味として謡を楽しむようになり、謡本が多数制作され、江戸初期からは出版されるようになる。



(C)kyoran/能楽イラスト++++

「光悦謡本(こうえつうたいぼん)」は、江戸ごく初期に、上流の人々によって企画され、少ない数が作られた高級な謡本。
(「古活字版(こかつじばん)」と呼ばれる版本の一種)

これから紹介する謡本は幅広い階層の人々によって愛用されていた謡本の典型。

(印刷方法は活字ではなく、版木による「整版(せいはん)」)

* 楽器の演奏を伴わず、能の謡のみを演奏することを素謡(すうたい)といい、江戸時代に幅広く親しまれた。

(文学研究で)ある作品(曲)がどんな謡本に収録されているか、どのように調べるか？

- ・『国書総目録』第6巻「能の本」の項目で調べると分かる。
- ・なぜ「謡本」ではなく、「能の本」という見出しか？
 - 古い能のテキストの中には、謡のテキストではなく、能の台本としての性格が強いものがあり、そのような本(能本)と謡本をあわせて「能の本」と呼ぶ。
ex「柏崎」には世阿弥(ぜあみ)自筆の能本がある。

カリフォルニア大学バークレー校所蔵 三井文庫旧蔵の謡本は下記の3点

『カリフォルニア大学バークレー校所蔵三井文庫旧蔵江戸版本書目』より

【A】2255〔謡本〕1冊 16cm 内容：烏帽子折(えぼしおり)、咸陽宮(かんようきゅう)、橋弁慶(はしべんけい)、愛寿(あいじゅ)、行家(ゆきいえ)(2-7-26)

【B】2256〔謡本〕1冊 23cm 書き題簽：須磨源氏女郎花 内容：三輪(みわ)、安宅(あたか)、軒端梅(のきばのうめ)、錦木(にしきぎ)、雲林院(うんりんいん)(4-19-197)

【C】2257〔謡本〕1冊 18cm 題簽：花月(かげつ) 内容：卒都婆小町(そとばこまち)、唐船(とうせん)、花月、呉服(くれは)、柏崎(かしわざき)(2-7-25)

* 下線を引いた語はすべて作品(曲)名。「須磨源氏」(すまげんじ)と「女郎花」(おみなめし)は別の作品。各作品の概要は『能楽大事典』『日本古典文学大辞典』(主要なもののみ)、『能・狂言必携』(のう・きょうげんひっけい)などでわかる。

【A・B・C】はどのような謡本か？

- 刊記(かんき。発行年月日や出版元を記した記事のこと)が無い。
- 江戸時代に刊行された謡本は膨大な数なので、作品名から特定することは難しい。

→何をヒントにして、どんな本であるかを
推定していくか？

【A・B・C】はどれも1冊に5作品を収録していることが特徴

- このような謡本のことを「五番綴謡本(ごばんとじうたいぼん)」という。
- 五番綴謡本は、普通、20冊(100番)などのセットで刊行される。
このようなセットの本を揃本(そろいぼん)という。

謡本の揃本の参考画像「縁山版(えんざんばん)」(安政六年五月 了従 十
番綴小型本(あんせいごねん りょうじゅう じゅうばんとじこがたぼん)(個人蔵)



- 【A・B・C】も、もともとは揃本のうちの
一冊だった可能性がある。

- それぞれの作品の組み合わせを
ヒントにして、どんな揃本の端本
(はほん。本来セットだった本の
一部のみが残っているもののこと)
であるかを探っていく。

五番綴の揃本の、作品の組み合わせの調べ方

こうざんぶんこぼんのけんきゅう・うたいぼんのぶ

•『鴻山文庫本の研究―謡本の部―』

表章、わんや書店、1965。(おもてあきら、わんやしよてん)

こうざんぶんこぞうのうがくしりょうかいだい じょう

•『鴻山文庫蔵能楽資料解題 上』

のがみきねんほうせいだいがくのうがくけんきゅうしょへんしゅう・はっこう

野上記念法政大学能楽研究所編集・発行、1990。

かみがかり(しもがかり)はんぽんばんぐみひょう

上記2冊の、付録「上掛り(下掛り)版本番組表」を参照する。

*「上掛り」とは、能の流儀(りゅうぎ)のなかで観世流(かんぜりゅう)と宝生流(ほうしょうりゅう)のこと、「下掛り」とは金春流(こんぱるりゅう)、金剛流(こんごうりゅう)、喜多流(きたりゅう)のことをいう。

*「内組」(うちぐみ)とは謡のレパートリーのなかでよく知られている曲、「外組」(そとぐみ)とはあまり知られていない曲を集めたセットのことをいう。

【A】は下掛りの〔外組イ〕の組み合わせ

外組イの本は何種類かあるが、その中でどの本か特定するために、事前に、法政大学鴻山文庫にある二種類の外組イの謡本の特徴を調べた。

→本の大きさ、一丁(いっちょう)あたりの行数・字数、役名(やくめい。キャストのこと)の表記、版心(はんしん。袋綴本の折り目になる部分)にどんなことが印刷されているか、などの特徴が一致することから、「刊年不明 刊者不明 五番綴小形本」(かんねんふめい かんじゃふめい ごばんとじこがたぼん)であることが分かった。

* 表紙に『軍法侍用集』(ぐんぽうじょうしゅう)という本の表紙が使われているが、国文学研究資料館蔵のこの本の画像を、「古典籍総合目録データベース」で見ることができる(<https://doi.org/10.20730/200016390>)。

【B】は〔内組D〕と〔内組F〕に共通する組み合わせ

- 〔内組D〕の組み合わせを持つ唯一の本である「万治二年山本長兵衛本」(まんじにねんやまもとちょうべえぼん)の写真のコピーを取り、江戸時代にもっとも普及した組み合わせで、多くの種類がある〔内組F〕の何種類かの本を鴻山文庫蔵本で調査した。

→「万治二年山本長兵衛本」ではないことはすぐに分かったが、調査した〔内組F〕の本と共通する特徴は見出せなかった。

◎もとの表紙とは別の表紙が付けられていること、「三輪」の部分のみ紙の種類と大きさが違うことなどから、持ち主が複数の本を使って〔内組F〕の組み合わせにした本だということが分かる。

【c】の組み合わせは無し。どんな本か？

- 組み合わせから類推する事前調査は不可能。
- 原本を確認し、次の1～4の特徴を手掛かりに、『鴻山文庫本の研究—謡本の部—』または『鴻山文庫蔵能楽資料解題 上』で調べる。

【C】の主な特徴1、2、3、4

- 1、「中本」(ちゅうほん)の寸法(すんぽう)＝約19×14cmであること。
- 2、刷り題簽(すりだいせん。印刷された題簽のこと)の「花月」という曲名の下の方に「當流新版」(とうりゅうしんばん)という四角囲みの文字がある。
- 3、役名がカタカナで表記されている。
 - * 上掛りの謡本の特徴。下掛りの謡本の役名は基本的にひらがなで書かれている。
- 4、節付け(ふしづけ。謡い方を示した記号)の表記が上掛りである。

1～4の特徴から分かったこと

3、4の特徴から上掛りの謡本であることが分かったので、『鴻山文庫本の研究—謡本の部—』・『鴻山文庫蔵能楽資料解題 上』第二章「江戸初期版行謡本」(えどしよきはんこううたいぼん)の第五節「観世流謡本」で、同じ特徴を持つ本が紹介されているか、確認していく。

→観世流の謡本のなかに、題簽の下のほうに「當流新板」という文字があることが特徴の、「刊年不明 江戸馬喰町二丁目南側 森屋治兵衛」(かんねんふめい えどばくろちょうにちょうめみなみがわ もりやじへえ)という一番綴の本があることが分かった。(鴻山文庫蔵本のなかには【C】と同じ曲の本は無い。)

→中本としてやや幅の狭い本(【C】は縦17.8×横12.4cm)という特徴も合致する。

【c】は一番綴の謡本を五冊集めて綴じた本

→ 一曲ごとに紙の大きさが少しずつ違う。

→「花月」の表紙を使って、持ち主が、一番綴謡本である「刊年不明 江戸馬喰町二丁目南側 森屋治兵衛」刊本五曲五冊を、一冊の本に綴じ直した謡本だと考えられる。

おしまい

ありがとうございました。



<https://doi.org/10.20730/200015578>

一般タ7-55-1~2

『舞楽秘曲』(統一書名『能之図式』)国文学研究資料館蔵

「日本古典籍データセット」より